

機関番号：12201

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20530452

研究課題名（和文）

東アジアにおける都市下層社会の変容と下層問題の理論的な構築に向けて

研究課題名（英文）

An Empirical and Theoretical Study of Marginalized and Excluded Groups in East Asia

研究代表者

田巻 松雄（TAMAKI MATSUO）

宇都宮大学・国際学部・教授

研究者番号：40179883

研究成果の概要（和文）：

過去おおよそ 20 年間にわたる日本のホームレス問題の変容を追うと共に、その日本的な特徴と問題点を、「ホームレス人口の規模及び構成」、「ホームレス増大の背景」、「路上生活の実情」、「ホームレスの社会問題化」、「ホームレス問題のポリティクス」の側面から整理・検討した。ホームレス増大の背景やかれらが直面する諸問題に触れながら、ホームレス問題の視点から日本社会全体の構造や問題点を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

I provided an overview of the problem of homelessness in Japan over nearly two decades, revealing the characteristics of the Japanese experience. Through a discussion of size and composition of the homeless population, the reasons behind the increase in homelessness and the various problems faced by the homeless, I shed light on the structure of and issues concerning Japanese society as a whole.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2009 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：下層問題

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：東アジア、都市下層、ホームレス、非正規外国人

1. 研究開始当初の背景

筆者は、1990 年代以降、下層社会研究に従事してきた。ホームレス研究では、主に東京都と名古屋をフィールドとした実態調査を通じて日本のホームレス問題の現実理解

を行うとともに、2000 年に入ってから台湾と韓国におけるホームレス事情について情報・データ収集を行ってきた。外国人労働者問題に関しては、日本におけるアジアからの非正規外国人労働者問題に分析の基軸を

置きつつ、2000年代に入り台湾と韓国、および労働力送出し国のフィリピンをも射程に入れることで、東アジアにおける国際労働力移動のダイナミズムと論理について検討してきた。そこで、外国人労働者の「不法化」は、国益の観点から厳しい受入条件の下で効率的な外国人労働者の導入を図ってきた国の政策と、経済のグローバル化の下での厳しい生活条件の中でより良い仕事と生活を希求し行動する人々の抵抗のせめぎあいが生み出す一つの産物であることを描き、東アジア的な論理と問題性について新しい知見を提起した。一方、2000年以降、ロスアンゼルス・パリ・サンパウロ・東京を対象にした「グローバル都市におけるホームレス問題」の国際プロジェクトに参加し、海外の研究者と交流を図りながら、ホームレス問題のグローバルな状況について理解を深めてきた。以上の作業を通じて、東アジアにおける下層問題を理論的に体系化する作業に着手することとした。

2. 研究の目的

研究の全体構想は、東アジアにおける下層社会の変容をグローバル化と関連づけて理論的に解明することにある。対象地域としては日本、台湾、韓国を主に念頭に置き、下層としてはホームレスと非正規外国人に着目する。1990年代以降のホームレスと非正規外国人の増大の背景を探るとともに、両者の関係を位置づけることで、東アジアのグローバル化と下層社会変容のダイナミズムを考察する。

本研究の具体的な目的は、日本におけるホームレス問題と非正規外国人を中心とする外国人労働者問題を脱工業化や経済のグローバル化という共通の枠組みで検討し、理論的な知見を得ることにある。そして、その作

業を通じて、東アジアにおける都市下層問題を包括的に捉えるための理論的な枠組みを構築することにある。

3. 研究の方法

3年間の研究期間のなかで、最大の目的は、台湾と韓国との比較を意識しつつ、日本の下層社会変容と下層問題をグローバル化の観点から理論的に解明することである。ホームレスと非正規外国人の増大の背景と意味、両者の関連、都市下層社会変容を促してきた構造的要因としてのグローバル化、現代における下層問題の構成と今後の行方、などが実証的かつ理論的に検討されることになる。以上の作業におおむね2年間で当てる。その知見を下に、東アジアにおける下層問題の理論的解明に向けた試論を展開し、東アジア的な論理と問題性を抽出しつつ、下層問題に関する理論的貢献を目指す。

筆者は、科研プロジェクト等を通じて実証的な研究を行うとともに相当の資料やデータを収集してきた。このため、本研究の目的を実現する上で特に重要な方法としては、補足的なデータの補充、下層問題の理論的な解明に強い関心を持つ国内外の研究者等との徹底した議論、関連学会での研究成果の発表と質疑にあると考えた。

4. 研究成果

3つの側面で成果があったと考えている。

(1) ホームレス問題の国際比較

日本におけるホームレス問題の特徴を国際比較の視点から位置づけ、ホームレス問題に関する国際比較研究を一定程度進展させた。この作業はASA (American Sociological Association) での報告とそれに前後する海外研究者との研究交流に現れている。

筆者は、アメリカ社会学会 2009 年次総会

(2009年8月、開催地サンフランシスコ)のテーマ部会”Homelessness and Homeless Communities”にパネリストとして参加し、日本および東京におけるホームレス問題の現状と課題について報告した。この部会は、David Snow氏が企画し、パネリストは、アメリカ、フランス、ブラジル、日本から5名が参加した。部会の開催に先立ち、討論すべき質問事項の原案として、まず、David Snowが10の質問を用意した。これに対してパネリストが意見を出し、最終的に、質問は15項目に拡大・修正された。当日の部会では、時間の関係で議論はいくつかの項目に限定された。

この部会での議論をベースにして、15の質問項目とそれに対する自分自身の回答を英語の論文としてまとめた(『宇都宮大学国際学研究論集』第29号、2010年2月、掲載)。

(2) 日本におけるホームレス問題の総括的議論

日本において路上で野宿する人々の存在が可視的になり、「ホームレス問題」として問題化されるようになってからほぼ20年が経った。ホームレス問題を含む下層問題の国際比較研究に向けた作業として、ほぼ20年に及ぶ日本のホームレス問題の特徴を、「ホームレス人口の規模及び構成」、「ホームレス増大の背景」、「路上生活の実情」、「ホームレスの社会問題化」、「ホームレス問題のポリテイクス」の側面から整理・検討し、英文(“The Problem of Homelessness in Japan,”)としてまとめた。本論は、メキシコ・コリマ大学のEmma Mendoza氏との議論から構想されたものである。本論は、コリマ大学と宇都宮大学の共同出版物(近刊)に掲載される。

論文の概要は、以下の通りである。日本では、長い間、路上で生活するホームレスの存

在が「公共空間の占拠」という視点から問題視されてきた。「ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法」は、「公共空間の管理」、「社会への迷惑の解消」、「地域環境の浄化」という視点からホームレス対策を進めるものであった。野宿者は2008年1月現在で約1万6千人であり、ピーク時の約2万6千人に比して1万人減少した。「問題となる人々」の不可視化や数の増減で政策の成果を語るとすれば、国の「不法滞在者」対策や「ホームレス」対策は確実に成果を挙げてきており、国の政策的効果の大きさが確認される。しかし、異質な他者を不可視化する社会は、人間同士が共に生きる能力を喪失している社会である。生活者としての視点に立って、ホームレスを取り巻く社会状況や政策の意味を多面的に検討する必要がある。競争と選別の原理が強化され、個人化の原理が徹底される今日的な状況に対していかに向き合っていくのかという課題においては、何らかの共同性を復権させていく思惟と営為が問われるであろう。

(3) 野宿者と外国人労働者問題の統一的な把握

従来別々に論じられる傾向が強かった外国人労働者(非正規滞在者、日系南米人、研修生)と野宿者を、グローバル化が進む日本社会で生じた現象として関連付けて論じる作業を進めた。まず、日本経済のグローバル化と新自由主義化を概観し、次に、外国人労働者と野宿者の増大を主に資本の戦略と国の政策の視点から解釈する。その上で、かれらの存在や増大がいかなる観点から問題として認識され、政策が整備されてきたかをみる。最後に、外国人労働者と野宿者の問題を下層問題として整理し、下層の人々に共通に作用してきた制度的メカニズムについて

明らかにする。以上の作業を通じて、下層問題が選別と排除が強められている現代日本社会の問題状況を鋭く描き出す問題であることを指摘することが目的であった。

この作業は、「グローバル化と下層問題—野宿者・者外国人労働者からみる現代」（水島司、田巻松雄編『日本・アジア・グローバル化—21世紀への挑戦 第3巻』日本経済評論社、2011年）としてまとめることにつながった。本論では、市場原理を徹底する資本の戦略とそれを支える国の政策によって下層は生み出されてきたこと、自立や共生のスローガンの下、下層には選別と排除によって不可視化する制度的メカニズムが作用してきたことを明らかにしている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

“Questions and Answers on Homelessness and Homeless Communities in Thematic Session of ASA, (American Sociological Association)” 『宇都宮大学国際学研究論集』第29号、2010年2月、pp.61-71.

〔学会発表〕（計1件）

“ Homeless and Homeless Community in Tokyo and Japan,” アメリカ社会学会 2009 年度年次総会、テーマ部会、Thematic Session “ Homelessness and Homeless Communities”、ヒルトンホテル、サンフランシスコ、2009 年 8 月 11 日。

〔図書〕（計1件）

田巻松雄、他、日本経済評論社、日本・アジア・グローバル化—2011,pp.165-201.

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.cc.utsunomiya-u.ac.jp/~tamaki/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田巻 松雄 (TAMAKI MATSUO)
宇都宮大学・国際学部・教授

